

農家数減っているのに金額が変わってないのは高価格作物へのシフト(京野菜)  
若者の就農支援制度もある。

## 地域環境工学概論(農村計画学)

### 地域環境工学の必要性

都市は人口が集中して効率的に活動する場であり、基本的に消費の場。よって持続可能性の担保として農村が必要。

本来都市と農村は共存していくべきだが現状は過疎と過密が進行。

農村人口の減少は様々な影響をもたらす。

→農村の持つ多面的機能(保水、災害防止、景観保全、伝統文化継承、教育など)が失われる。

→経済的に強いから食料は輸入すればいいという考えは誤り。

(食料安全保障の考え→不作、国際情勢に影響を受ける)

農村地域は混住化(農家と非農家が同じ空間に住む)が、整備は遅れている。

都市と農村との補完的関係を工学的視点から再構築するのが地域環境工学。

### 大気環境学

温室効果のあるメタンやノンメタンハイドロカーボンは風が強いと放出が減る。(風の強い時にやるほうがいい)

黄砂は砂漠ではなく畑から飛んできている？

花粉の大気中での動き方飛散予測を行う。(ロジカルに計算。)

空中花粉は

アレルギー問題(花粉症)

### GMO(遺伝子組み換え体)

遺伝子組み換え体の交雑を防ぐにはどの程度離さなければならないかを研究。

交雑率は指数関数的に減少。日本では5%以下の混入は「なし」としている。

組み換え体と共存するためには検出、生態系影響、そしてSCPを考える必要あり。

などの影響を及ぼす。